

産学連携で 継続的食育

神奈川・J A
相模原市

【神奈川・相模原】
J A相模原市は、産学
連携協定を結ぶ相模原
市の相模女子大学での
出前食農授業に取り組
んでいる。今年で6年
目を迎え、同大学小学



児童に大豆の播種を指導するJ A職員⑥（神奈川県相模原市で）

部・中学部の児童や生徒に、サツマイモ、米、小麦の栽培をJ A営農経済部の職員が指導している。

7月中旬には、小学部の3年生71人に大豆の播種（はしゅ）を指導した。まいた種は昨年の授業で収穫したもの。継続して取り組む

ことで計画的な栽培ができ、教員の知識向上

や学年同士のつながりができるなど、メリットが生まれている。

J A職員は大豆の生育を説明した後、植える深さや、益虫・害虫の違いなどを説明した。児童は、土の感触を楽しみながら1粒ずつ丁寧に種を植えていった。

J A営農経済部指導販売課の川村百合子さんは「収穫を迎えるまでにはさまざまな世話が必要。体験を通じて協力することの大切さや、農業の楽しさ、大変さなどを感じ取り、農業や食べ物を大切に
する気持ちを育んでほしい」と話した。